

東証IRフェスタ2017

ETFの賢い使い方

ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部 ディレクター
iシェアーズ・インベストメント・ストラテジスト
新井 洋子

2017年2月25日

iShares®
by BLACKROCK®

はじめにお読み下さい

当資料は、日本取引所グループ／東京証券取引所が主催されるセミナーにご参加の投資家様向けに、E T Fを活用した資産運用に関する一般情報をご提供する目的で作成されたものです。

当資料は、ブラックロック・ジャパン株式会社iシェアーズ事業部（以下、「弊社」）の見解として、E T Fを組み合わせることによるメリットをご説明しております。当資料でご紹介するアイデアはあくまでも一般的な例示であり、実際の個別のお客様の知識、経験、財産の状況及び金融商品取引契約を締結する目的等を勘案したものではございません。

当資料のみをもって、個別のE T Fの売買を含めいかなる金融商品取引・投資行動を弊社が勧誘するものではありません。実際に個別のE T Fその他金融商品へのご投資を検討される際は、お客様のお取引先の金融商品取引業者（証券会社その他の金融商品取引業者）から交付される法定開示資料にて、投資に伴うリスク・手数料等を十分にご検討・ご確認下さい。

当資料の内容を複製若しくは第三者に対して開示することはご遠慮下さい。当資料は弊社が信頼できると判断したデータ及び資料等に基づいて作成しておりますが、その情報の正確性、完全性について保証するものではありません。また、各種データ等は過去のデータに基づくものであり、今後の成果を保証するものではありません。更に、当資料中のコメントは作成日現在の弊社の判断を示したものであり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

弊社に関する会社情報、E T Fへの投資に伴うリスク・手数料、費用等につきましては、巻末の「ご留意事項」をどうぞご覧下さい。

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会: 一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ウェブサイト www.blackrock.com/jp/

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館

ブラックロック BLACKROCK® ＝グローバルベースで運用資産世界ランキング1位*1の運用会社

ブラックロック・ジャパン株式会社は日本法人として日本のお客様に運用サービスをご提供しています。

(グローバルベース)

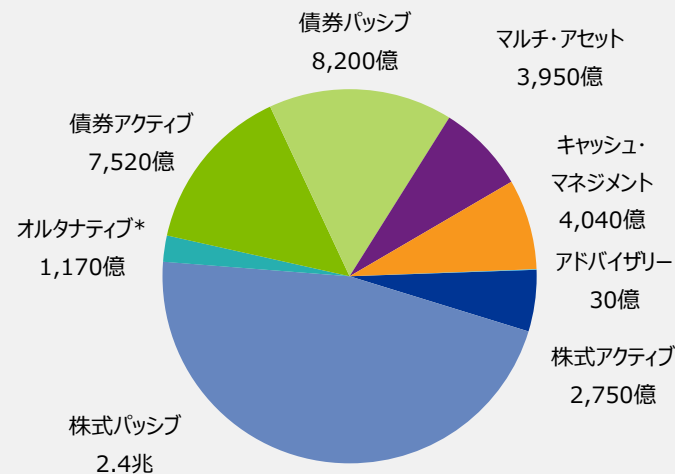
BlackRock

- 1988年設立
- ニューヨーク証券取引所上場
(ティッカー: BLK)
- 運用資産残高約5.15兆ドル (約600兆円)
- 社員数 12,000名超
- 運用プロフェッショナル数 1,800名超*
- 30カ国以上で展開
- 主要運用拠点25ヶ所*
- 100ヶ国以上に広がる顧客基盤

2016年12月30日現在、適用レート: WMロイター 1ドル=116.635円

*2016年9月30日現在

約5.15兆ドル (約600兆円) に及ぶ様々な資産を運用



※運用資産は2016年12月30日現在 (単位: ドル)

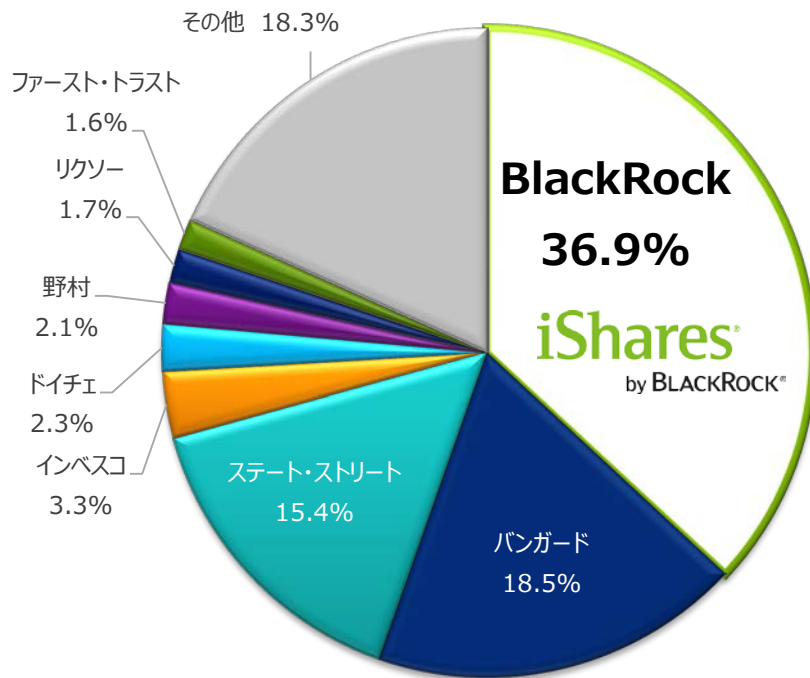
*コモディティ及び通貨マンドートを含む

※1出所: The P&I/Towers Watson global 500 research and ranking - Year end 2015 (2016年10月)。ブラックロックのグローバル全体の運用資産残高ベース。

iシェアーズとは

- ✓ ブラックロック・グループが設定・運用する世界最大のETFブランド
- ✓ 世界のETF市場のマーケットリーダー

運用会社別 ETF運用資産残高シェア



- ◆ 純資産残高 : 12,933億ドル (業界首位)
- ◆ 銘柄数 : 804本 (業界首位)
- ◆ 日本での届出銘柄数* : 100本
- ◆ 国内上場銘柄数** : 18本

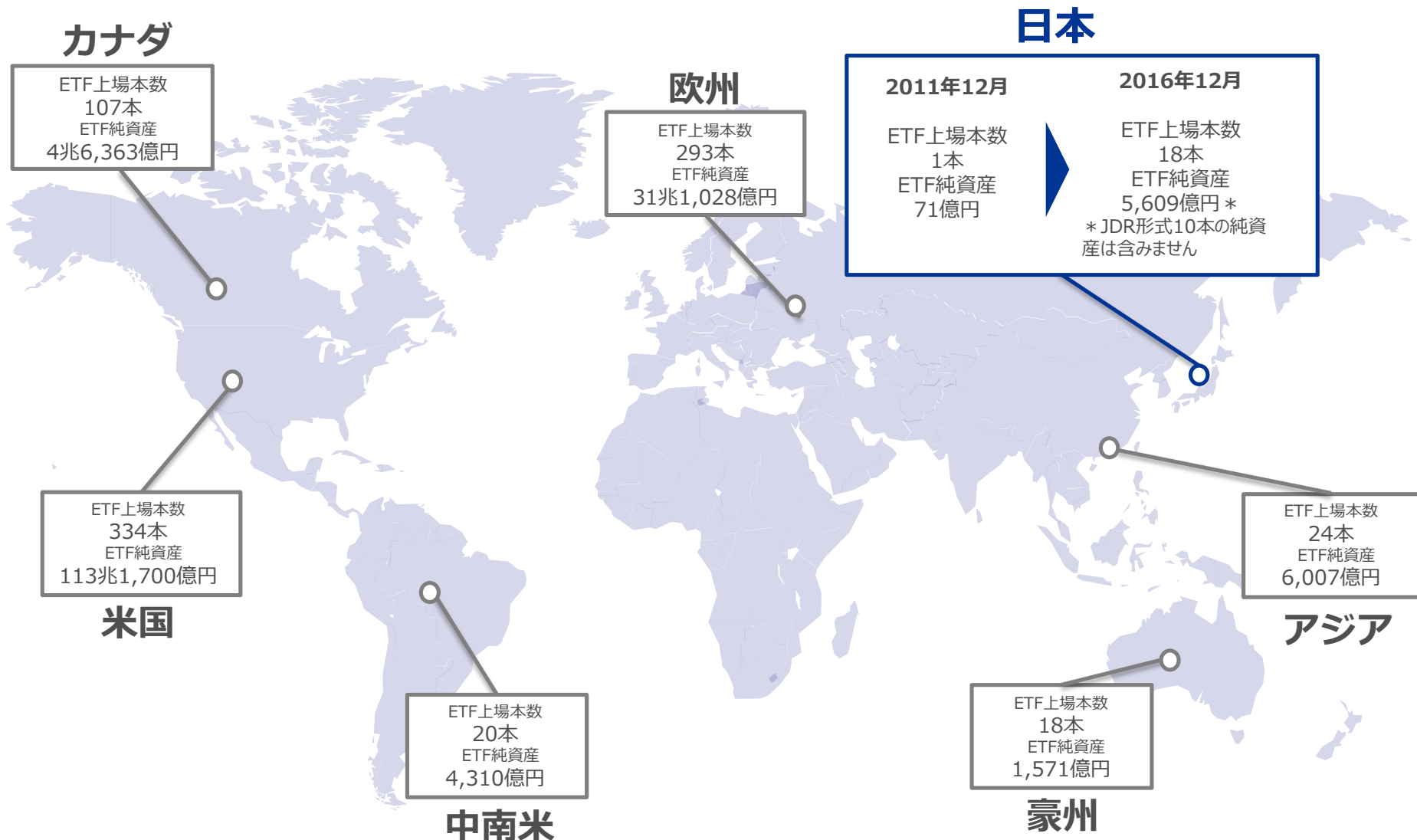
*日本の法令に基づく届出を意味します。日本の法令に基づく届出がされていない銘柄については、一般投資家の方が日本国内の証券会社でそれらを取引することができません。

**このうち10本については、海外上場ETFを信託財産とする受益証券 (JDR) 形式で上場されている銘柄です。

出所 : BlackRock、2016年12月末時点

世界の投資家の皆様へ、手軽で幅広い選択肢を注

世界各地域に上場するiシェアーズETF

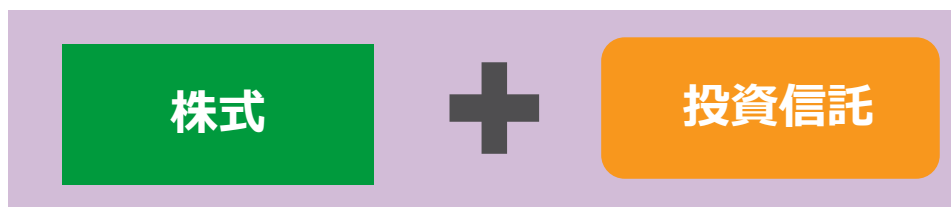


注: 上記には日本国内で取り扱いされていないETFも含まれます。

出所: ブラックロック、重複上場を除く。2016年12月末時点

ETF（Exchange Traded Fund）

=株式市場で売買可能



分散投資

=複数の証券への投資



Exchange Traded Fund

証券取引所で 取引される 投資信託

- ▶ ETFは株式と投資信託の特徴を兼ね合わせた金融商品
- ▶ 主な証券取引所で売買が可能なオープンエンド型インデックスファンド

透明性/柔軟性

- 投資家はウェブサイト等で常時ETFの構成銘柄やウエイトを把握できる
- 証券取引所に上場され、市場が開いている時間はいつでも取引できる

多様性

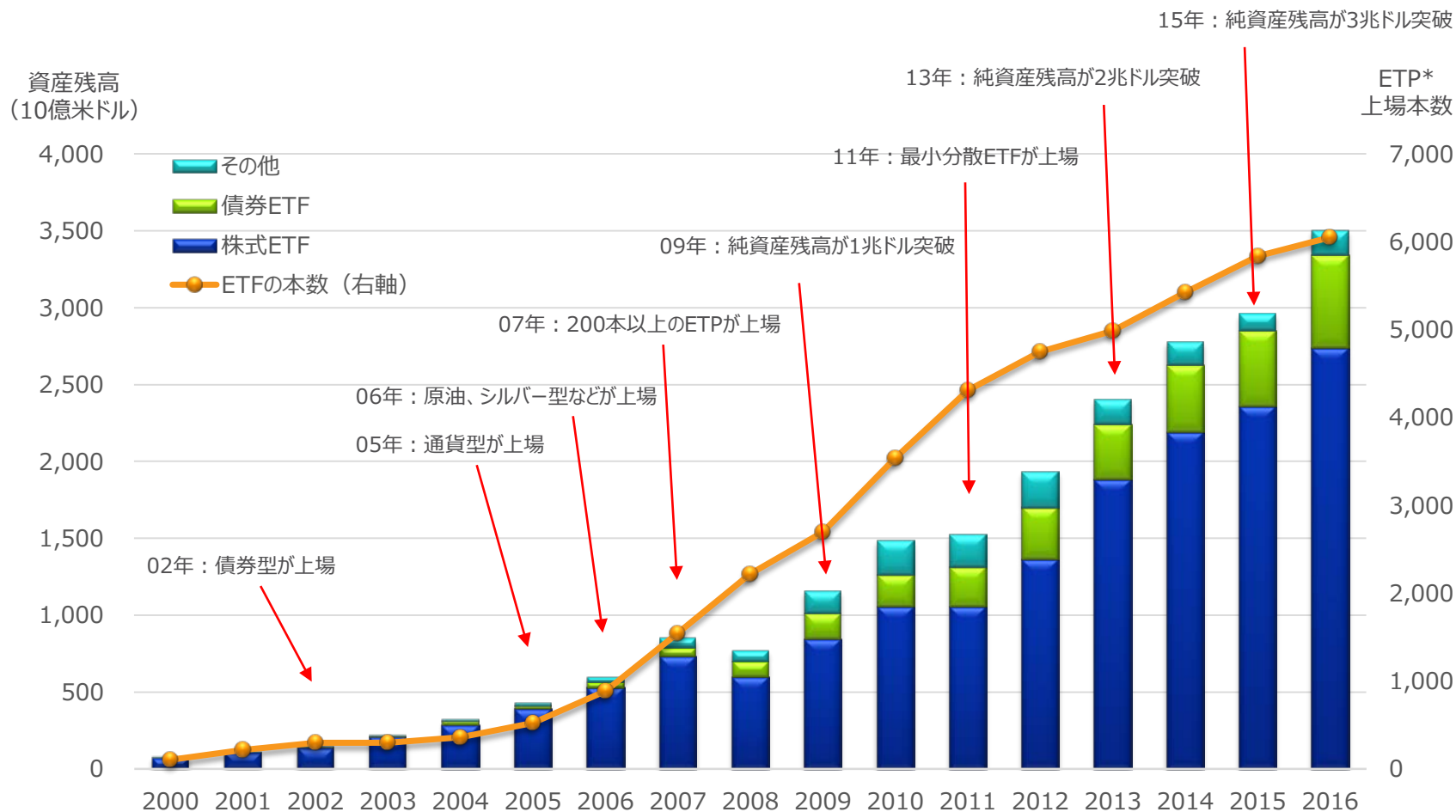
- ETF1銘柄の投資で複数の個別銘柄への投資と同様の効果
- 株、債券、不動産、コモディティ、テーマ型など多種多様な資産クラスへのアクセスが簡単にできる

コスト効率

- 経費率は一般の投資信託よりも比較的優位

注：上記は、ETFに関する一般的な特徴を示したものであり、すべてのETFについて網羅的に示すものではありません。

拡大と多様化を続ける世界のETF市場



*ETP (Exchange Traded Product) とは、ETF(Exchange Traded Fund), ETN(Exchange Traded Note), ETC(Exchange Traded Commodity), ETI(Exchange Traded Instrument) を含む上場金融商品の総称です。

出所: BlackRock、2016年12月末時点

2016年に見られたETF市場の成長要因は2017年も続くことを見込む

市場変動（ボラティリティ）の高まり
金利上昇（債券価格の下落）

債券ETF

商品の多様化
代表市場や資産に連動する商品から
一定の投資目的を満たす銘柄選択が施された商品へ

「スマートベータ型ETF」
時価総額でウェイト付けされた
TOPIXなどの指数と異なる、洗
練された銘柄選択方法を取り入
れた指数に連動するETF

複数資産を組み合わせた運用
（マルチアセット運用）増加

ETFを使った分散投資

長期投資、分散投資の必要性

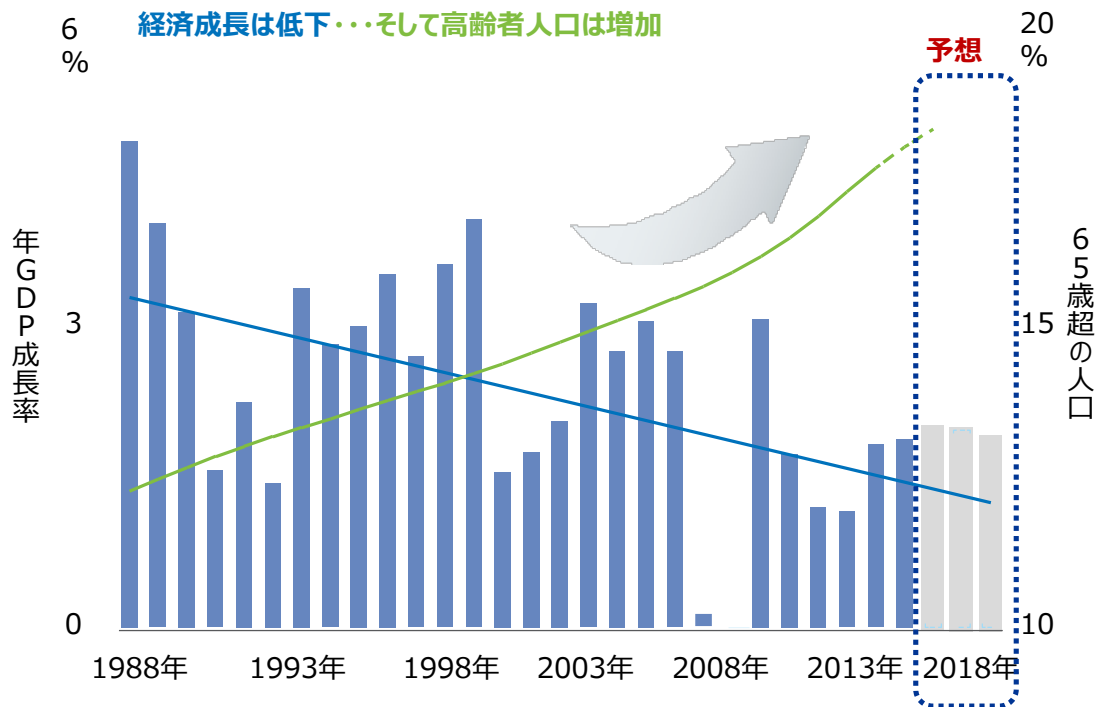
世界市場における長期的な課題：過去と比べ長期的に低い期待収益の見通し

長期的には低い金利水準と低調な経済成長トレンドを見込む

ブラックロックの見通しの背景

低成長と高齢化（IMFによる予想）

GDP成長率および全人口に占める65歳超の比率（1988～2018年）

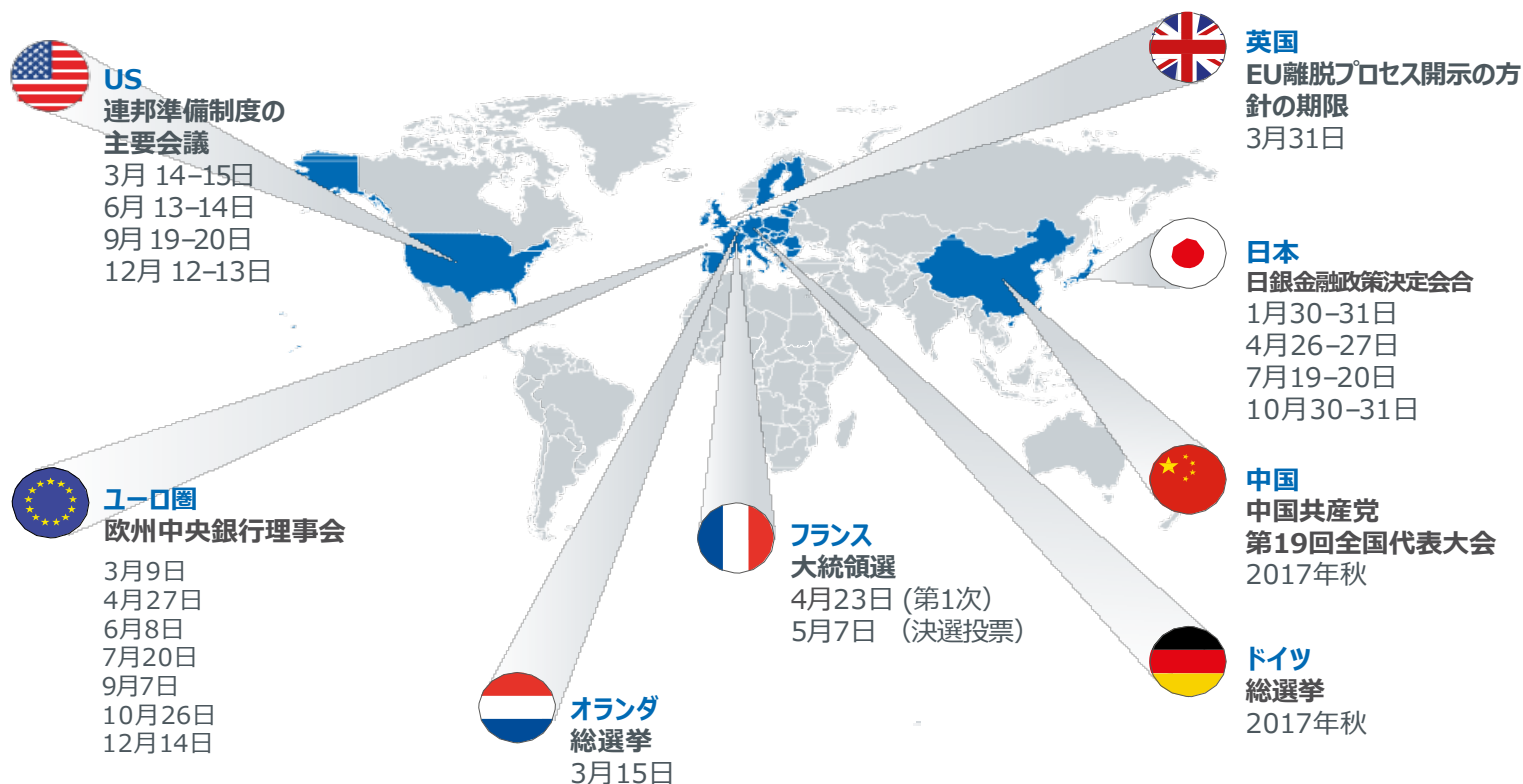


出所：BlackRock Investment Instituteの見通しに基づき、
ブラックロック作成

出所：国際通貨基金（IMF）、世界銀行、ブラックロック、2016年6月現在。注：GDP成長率は、IMF分類先進国についての国内総生産（ドル・ベース）の年間変化率に基づきます。全人口に占める比率は高所得OECD加盟国（世界銀行によって分類されます）に基づきます。2016年から2018年のGDP成長率はIMFの予想に基づきます。

リスク要因：政治政策に関わるリスク

2017年主要国の主な政治イベントなど



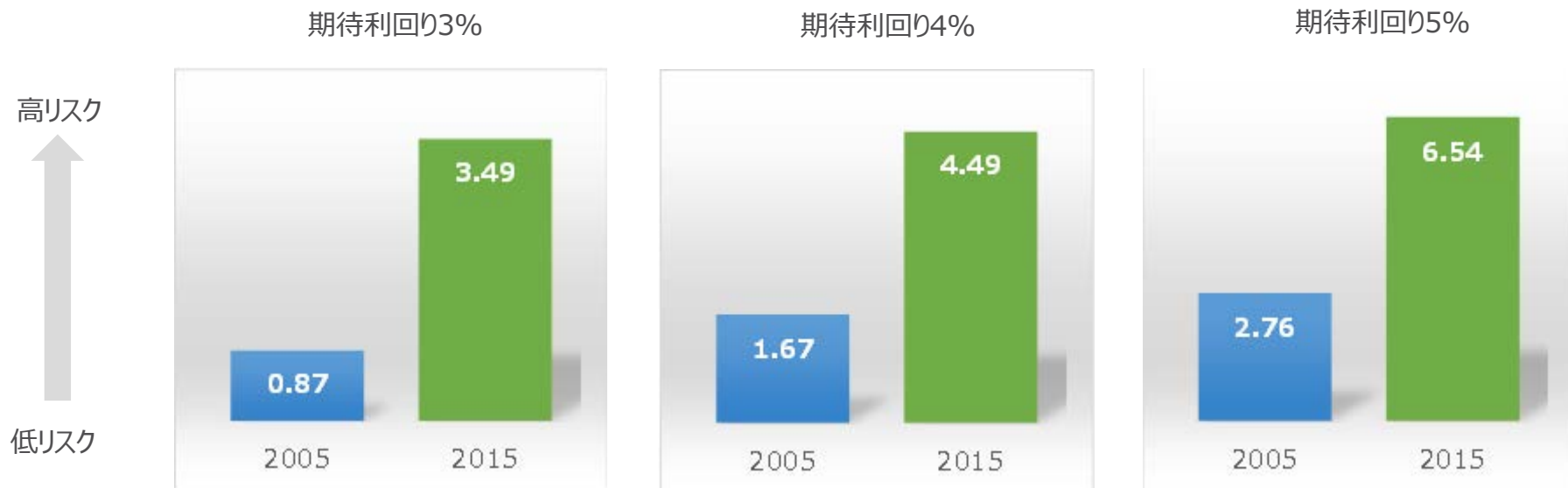
注：現時点の情報に基づき作成しており、今後変更する可能性があります。
出所：ブラックロック・インベストメント・インスティテュート

債券投資で安定的なインカムゲインを維持することが従来より困難

インカム追求する投資におけるリスク（価格変動）の高まり

- 世界的な低金利傾向の中でインカムを求める動きが強まるも、インカム追求のためにさらされるリスクは以前よりも増大したと推計されます。

過去データに基づく試算値（一定の期待利回りを追求する目的で米国の債券に幅広く投資した場合の価格変動の大きさ）



注：上記図表のリスクは2005年から2015年の外国籍ファンドのデータに基づき年率換算した数値です。上記図表は説明を目的としており、以下のような仮想ポートフォリオを前提に計算した結果に基づくものであり、実際の投資には利用できません。2005年の3%の利回り水準のインカムポートフォリオについては、マネーファンド：81%、コアボンド：19%、4%のインカムポートフォリオについては、マネーファンド：55%、コアボンド：30%、ハイイールド債：15%、5%のインカムポートフォリオについてはマネーファンド：30%、コアボンド：40%、ハイイールド債：30%の配分を仮定しております。2015年については、3%の利回り水準のインカムポートフォリオについては、コアボンド：84%、ハイイールド債：16%、4%のインカムポートフォリオについては、コアボンド：63%、ハイイールド債：37%、5%のインカムポートフォリオについてはコアボンド：41%、ハイイールド債：59%の配分を仮定しております。マネーファンド、コアボンド、ハイイールド債はモーニングスターによる課税対象ファンド分類によるものです。将来の投資成果を保証するものではありません。

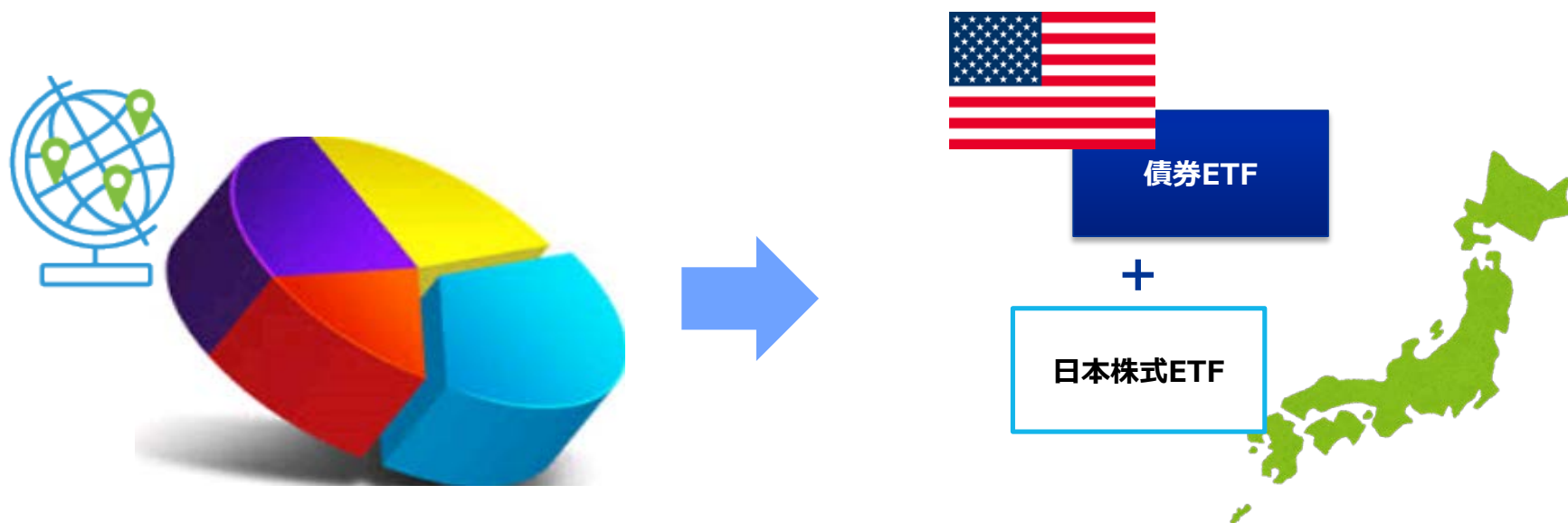
出所：モーニングスターのデータに基づき、ブラックロックが作成

直面する課題への解決策ETFを組み合わせる（「ETFポートフォリオ」）という考え方

投資資産を一つにこだわらない

異なる資産クラスに投資することによる投資収益（リターン）の追求と、価格変動リスクの分散効果

- ETFポートフォリオの「ポートフォリオ」の由来は「書類入れ」
書類入れは提示する相手や状況に応じて中身を差し替えていくもの
唯一の完成品はないので、投資家にあったものを見つけていくことが重要
 - 例として債券と株式という分散投資から始める
 - わかりやすい身近な情報を活用する
- ✓ 分散投資というと多数の資産クラス、地域に投資する国際分散投資が主流
✓ 一方、海外の情報の入手や理解することは容易でない場合は、債券ETFと株式ETFという2種類のETFの組み合わせでも、銘柄分散、時間分散の効果を期待できる



ご参考

「ETFポートフォリオ」は個人投資家の長期投資に活用されている（米国での調査例）

「ブラックロックETFパルス・サーベイ」について

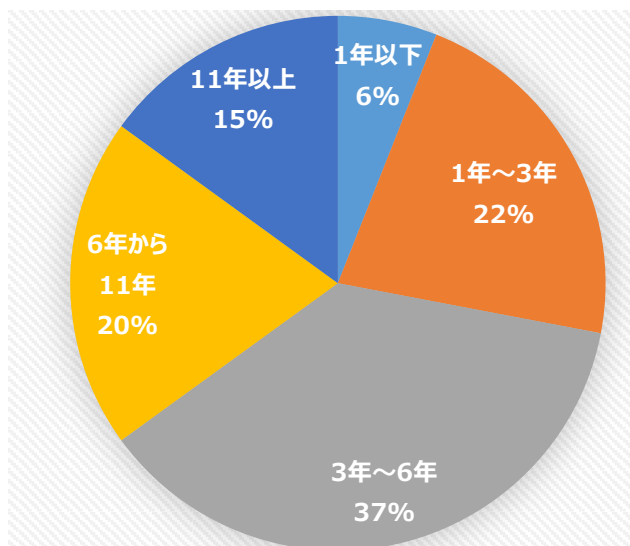
「ブラックロックETFパルス・サーベイ」は、米国投資家とファイナンシャル・アドバイザーの投資に対する姿勢と投資行動を調査したもので、2016年9月12日～26日に1,001名の個人投資家および409名のファイナンシャル・アドバイザー（合計1,410名）からオンライン調査ベースで回答を得ました。調査対象者は、10万ドル以上の待機資金を持ち、かつETFを認知している21～75歳の米国の個人投資家、および2,500万ドル以上の資産を運用する21～75歳の米国のファイナンシャル・アドバイザーです。

本調査は、外部調査会社であるカンターTNSによって実施されました。



米国個人投資家には既に浸透しているETFによる投資

回答者のうちETFの保有者はETFを長期投資として活用している
（平均保有期間5年）



10人中9人の米国の
ファイナンシャルアドバイ
ザーはポートフォリオに
ETFを使うことを2017
年に検討している

90%

現在ETFを保有している投資家のうち、
12ヵ月後にETFを増やすことを検討中

40%

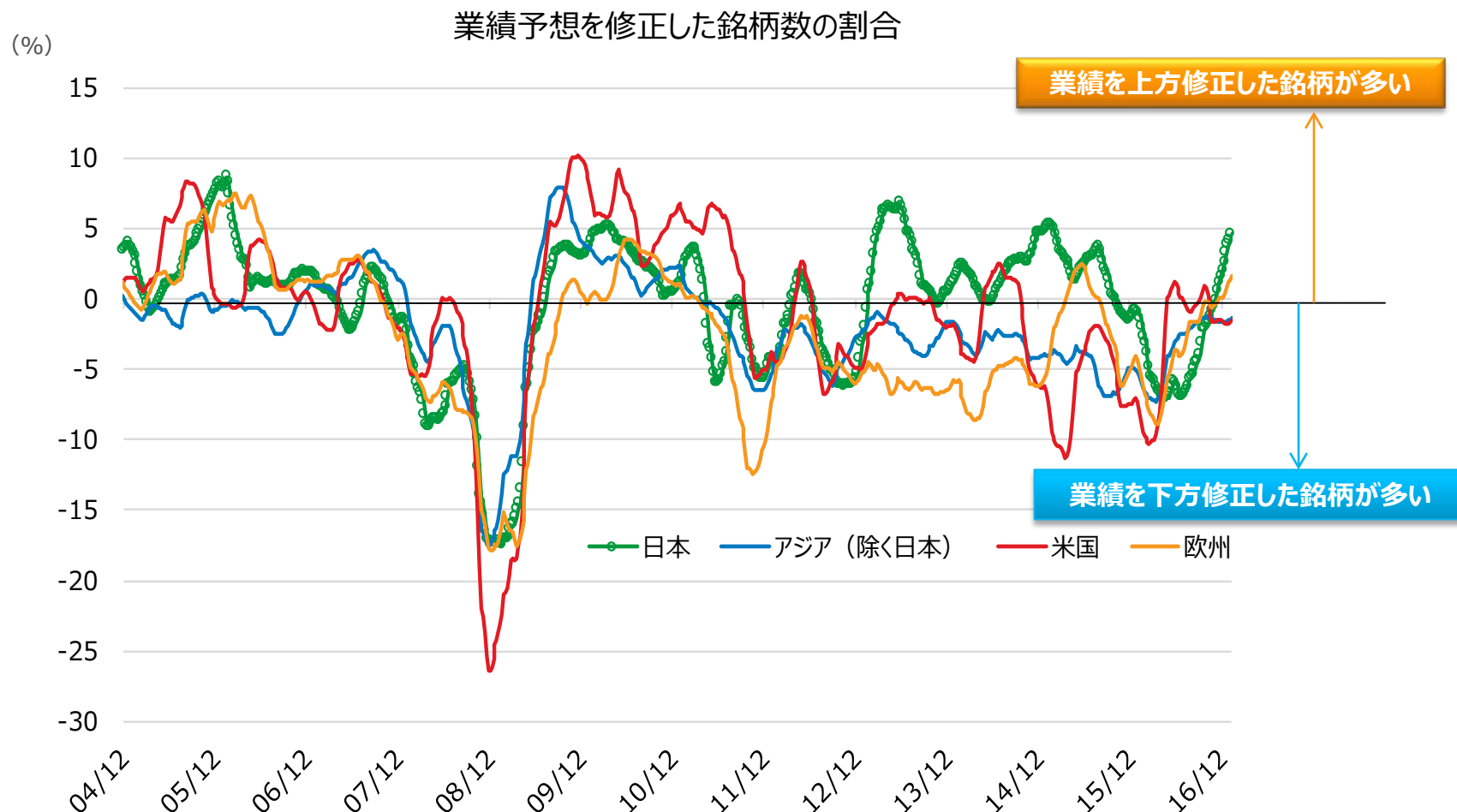
ETFの未保有者のうち、12ヵ月後にETF
を使った投資を開始することを検討中

出所：米国BlackRockの調査『ブラックロック ETFパルス・サーベイ』の結果に基づきブラックロック作成

2017年：日本株市場

世界市場から見た日本株市場

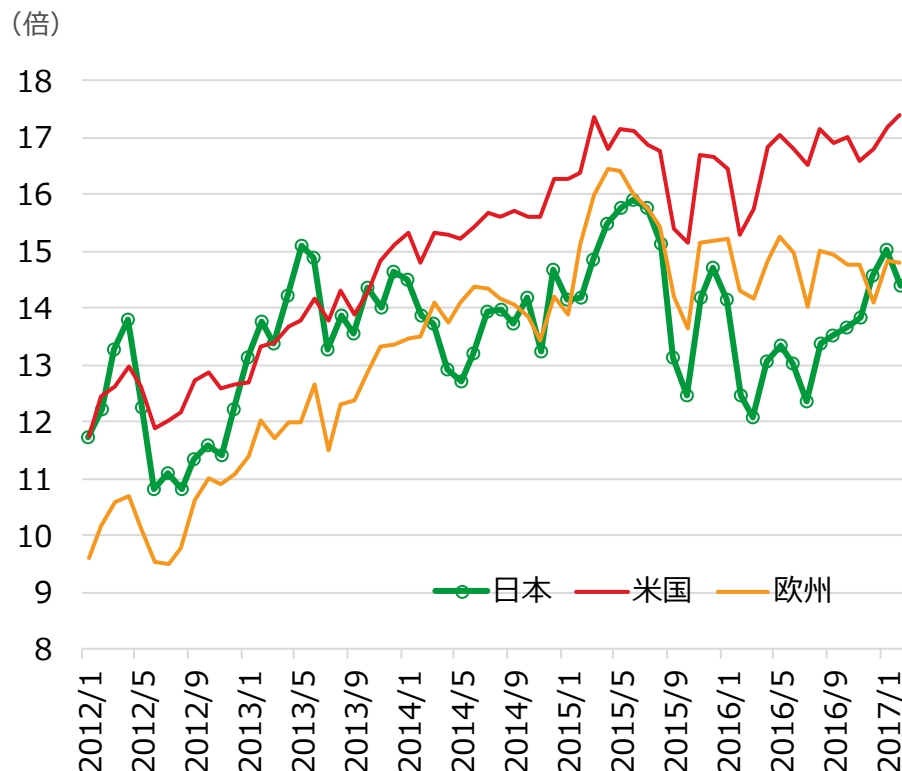
業績の回復傾向 - 日本企業の業績の上方修正傾向が継続



注：以下の各地域指数を構成する銘柄の業績修正の方向性の比率の推移を示しており、上方修正された銘柄が多いとき、値はプラスを示し、下方修正された銘柄が多いときはマイナスを示します。日本：MSCI日本株指数、アジア（除く指数）：MSCIアジア除く日本株指数、米国：MSCI米国指数、欧州：MSCIヨーロッパ指数
上記の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。
出所：ブラックロック

世界市場からみた日本株市場 バリュエーション（割安度合い）

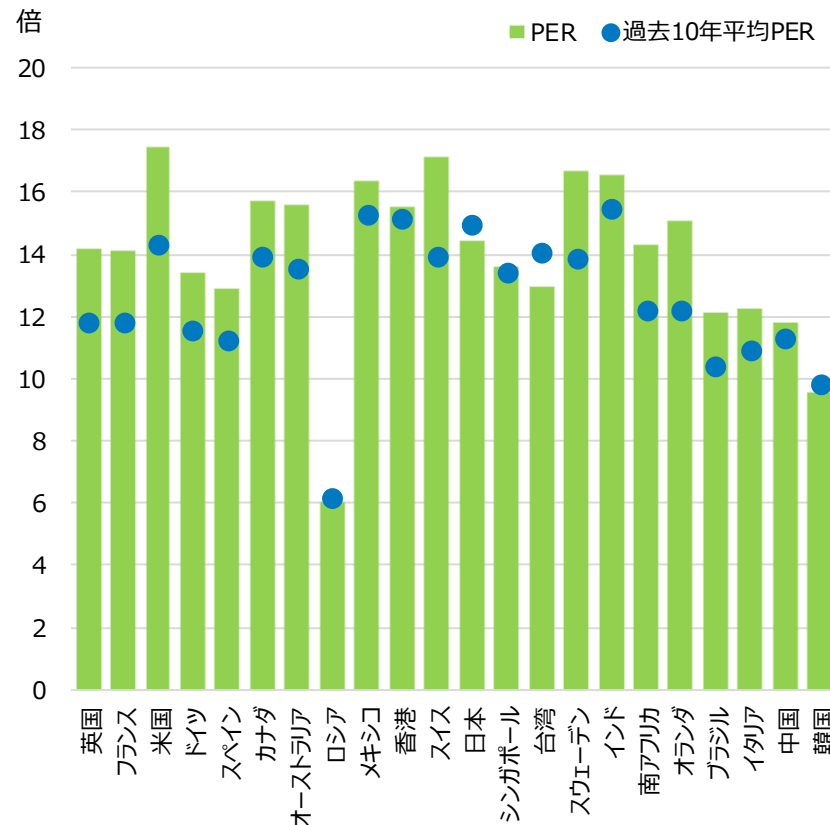
予想PER・市場比較



注：上記は各地域のMSCI指数ベースのPERの推移を示しています。上記の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

出所：トムソンロイター、ブラックロック

過去10年平均との比較



注：上記は各国のMSCI地域指数ベースのPERを示しており、棒グラフは2017年2月15日時点、○印は過去10年（2007年2月末～2017年1月末）の推移を示しています。上記の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

出所：トムソンロイター、ブラックロック

投資目的に応じて東証iシェアーズETFを活用する投資

■ 日本株式（国内籍）

銘柄コード	銘柄名	対象指数	信託報酬率 (税抜)	純資産総額	上場日
1329	iシェアーズ 日経225 ETF	日経平均株価指数（日経225）	0.13%	3,625億円	2001年9月5日
1364	iシェアーズ JPX日経400 ETF	JPX 日経インデックス 400	0.115%	669億円	2014年12月2日
1475	iシェアーズ TOPIX ETF	東証株価指数（TOPIX）	0.06%	492億円	2015年10月20日
1476	iシェアーズ リート ETF	東証REIT指数	0.16%	476億円	2015年10月20日
1477	iシェアーズ MSCI 日本株最小分散 ETF	MSCI日本株最小分散指数	0.19%	109億円	2015年10月20日
1478	iシェアーズ MSCI ジャパン高配当利回り ETF	MSCIジャパン高配当利回り指数	0.19%	90億円	2015年10月20日
1483	iシェアーズ JPX/S&P 設備・人材投資 ETF	JPX/S&P 設備・人材投資指数	0.19% (★0.095%)	121億円	2016年6月10日

(★) iシェアーズ JPX/S&P 設備・人材投資 ETF は、当初設定日（2016年6月9日）から第3期計算期間終了日（2017年8月9日）までは信託報酬を9.5bpへ引き下げます。

■ 米国国債（国内籍）

銘柄コード	銘柄名	対象指数	信託報酬率 (税抜)	純資産総額	上場日
1482	iシェアーズ 米国債7-10年 ETF（為替ヘッジあり）	シティ米国債7-10年セレクト・インデックス (国内投信用 円ヘッジ円ベース)	0.14%	27億円	2016年5月27日

**iシェアーズのブースにて各銘柄の詳細説明を行います。
是非お立ち寄りください**

出所：ブラックロック、データは2016年12月末時点

あなたの目的にあった **ETFの賢い使い方**

日本株ETFと米国債券ETFによる分散投資の例

資金の用途、投資目的に応じたETF活用例

債券ETF + 日本株ETFで資金の用途や目的に応じた分散投資

資金の用途の例

既に決まった資金ニーズがある

資金の使い道の目安はあるが、金額や支出のタイミングは定まっていない

現時点では余剰資金である

価格変動リスクの小さい資産として債券などの組み入れを重視する

比較的中期の投資期間であれば、債券など価格リスクの小さい資産の組み入れ比率を高め、より長期で見ているのであれば株式の組み入れも検討

価格変動リスクをどれくらい許容できるか、保有期間、取引の頻度など、個々の条件や投資目的に応じて、資産クラス、投資比率を決定

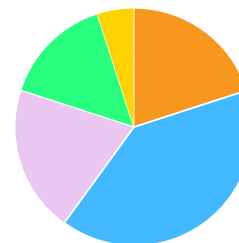
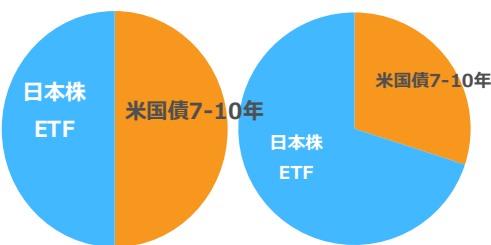
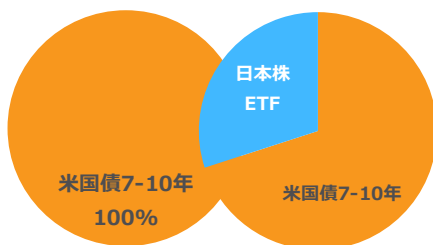
債券ETF

1482

iシェアーズ
米国債7-10年ETF
(為替ヘッジあり)

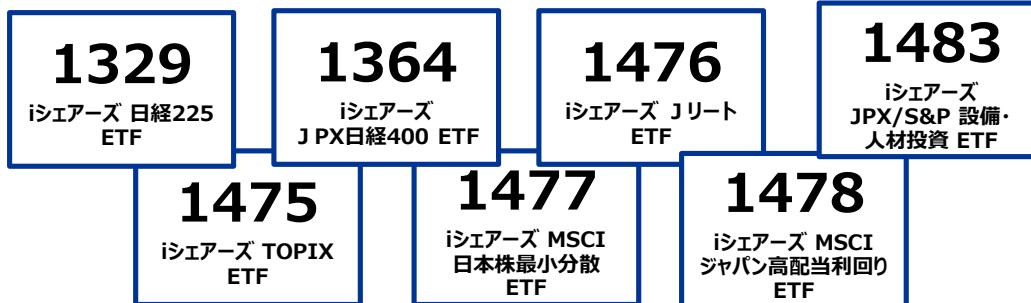
+

日本株ETF



例)

1. リスクを極力回避
…リスクの小さい資産中心
2. ややリスクを許容
…高リスク資産比率 < 低リスク資産比率
3. ある程度のリスクを許容
…高リスク比率 > 低リスク比率



どの日本株
ETFを選択？

注：上記は、分散投資にかかる期間の目安やその考え方の例を説明することを目的として作成されております。将来の成果を保証するものではありません。
出所：ブラックロック

投資目的や期間に応じたETF活用例

債券ETF + 日本株ETFで資金の用途や目的に応じた分散投資

資金の用途、期間の目安例

既に決まった資金ニーズがある

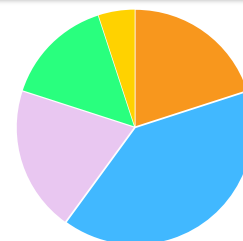
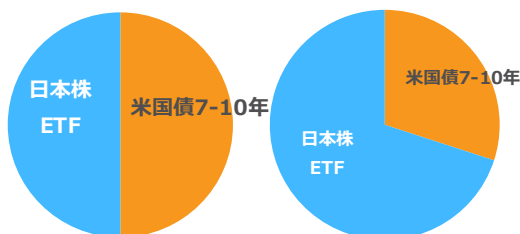
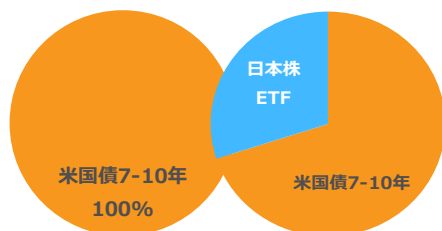
資金の使い道の目安はあるが、金額や支出のタイミングは定まっていない

現時点では余剰資金である

価格変動リスクの小さい資産として債券などの組み入れを重視する

比較的中期の投資期間であれば、債券など価格リスクの小さい資産の組み入れ比率を高めに、より長期で見ているのであれば株式の組み入れも検討

価格変動リスクをどれくらい許容できるか、保有期間、取引の頻度など、個々の条件や投資目的に応じて、資産クラス、投資比率を決定



代表的な指数に低コストで投資



1329

iシェアーズ 日経225 ETF

1475

iシェアーズ TOPIX ETF

不安定な相場対応



1477

iシェアーズ MSCI 日本株最小分散 ETF

配当重視

1475

iシェアーズ Jリート ETF

1478

iシェアーズ MSCI ジャパン高配当利回り ETF

特定の目的をもった銘柄選択による投資

1364

iシェアーズ JPX日経400 ETF

1483

iシェアーズ JPX/S&P 設備・人材投資 ETF

安定的なROEが期待できる銘柄重視

設備・人材投資に積極的な企業を重視

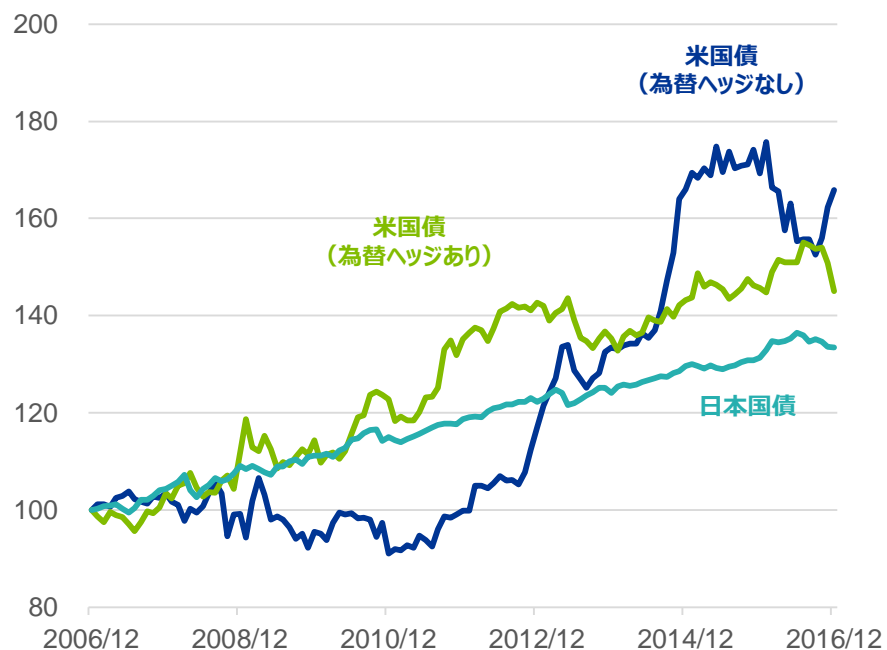
注：上記は、分散投資にかかる期間の目安やその考え方の例を説明することを目的として作成されております。将来の成果を保証するものではありません。
出所：ブラックロック

iシェアーズ米国債7-10年 ETF（為替ヘッジあり）

為替リスクを抑えつつ米国債の利回りを追求

✓ 対象指数の値動き

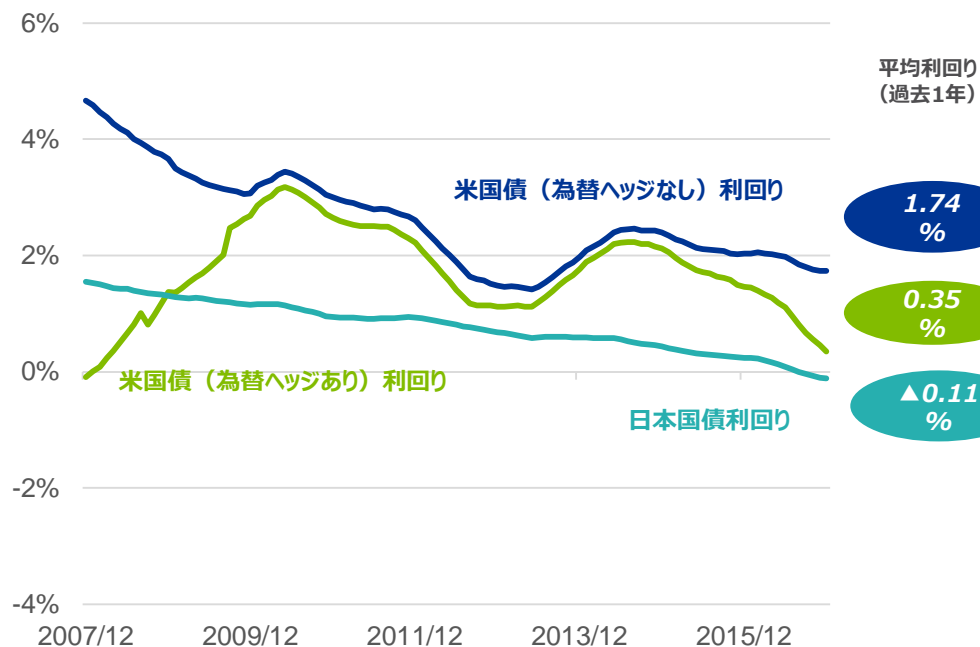
（期間）2006年12月末～2016年12月末、2006年12月末を100として計算



為替ヘッジ効果により、
値動きは安定的に

✓ 利回りの推移

（期間）2006年12月末～2016年12月末の12ヶ月ローリングリターン、
ローリングリターンは同期間の年率換算したリターンの平均を指します



平均利回り
（過去1年）

1.74
%

0.35
%

▲0.11
%

米国債利回りと為替ヘッジコストが
指数の利回り水準を決定

出所：Citi、Bloomberg、ブラックロック。データは2016年12月末時点。
参照指数：米国債（ヘッジなし）と日本国債はシティ世界国債インデックスを使用。
米国債（為替ヘッジ）はシティ米国債7-10年セレクト・インデックスを使用。

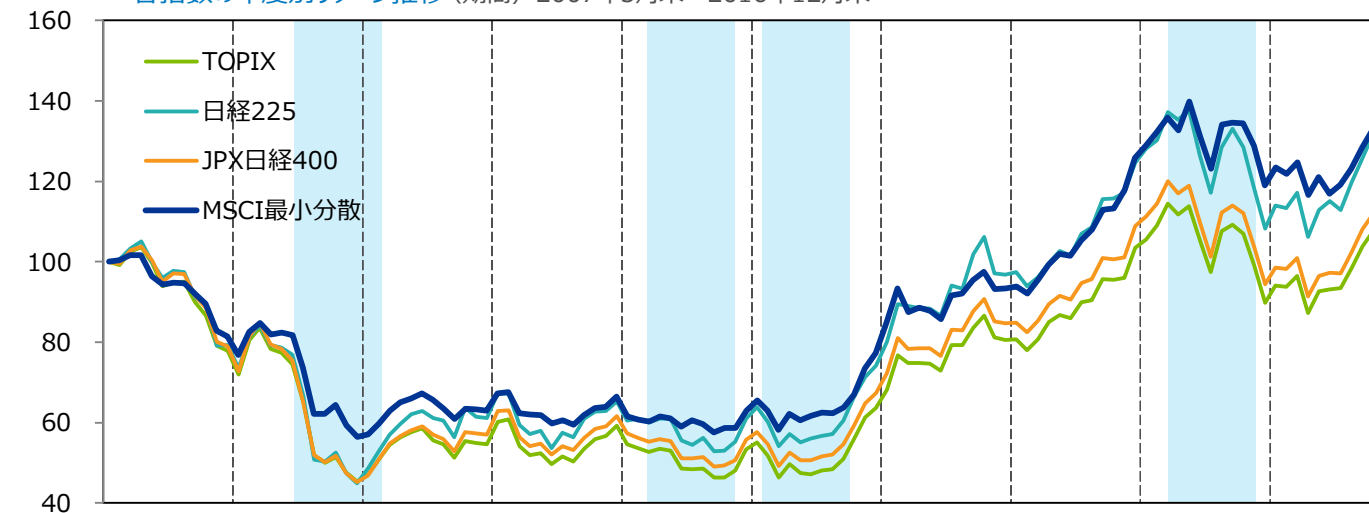
* 上記は過去の実績であり将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

iシェアーズ MSCI 日本株最小分散 ETF

過去の実績ではリスクを抑えつつ、従来の指数を上回った

*親指数であるMSCI JapanとTOPIXの同期間の相関は0.999です

✓ 各指数の年度別リターン推移 (期間) 2007年3月末～2016年12月末



(年度)	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
	最小分散 ▲23.2%	最小分散 ▲25.7%	日経225 38.7%	最小分散 ▲8.5%	最小分散 6.4%	最小分散 29.6%	日経225 21.6%	最小分散 37.5%	最小分散 ▲4.2%	日経225 15.3%
	日経225 ▲26.4%	日経225 ▲34.0%	JPX400 34.6%	JPX400 ▲9.0%	日経225 5.6%	日経225 25.5%	TOPIX 18.6%	日経225 31.6%	TOPIX ▲10.8%	TOPIX 14.0%
	JPX400 ▲27.2%	TOPIX ▲34.8%	TOPIX 28.5%	TOPIX ▲9.2%	JPX400 0.6%	JPX400 25.3%	JPX400 17.5%	JPX400 31.1%	日経225 ▲11.1%	JPX400 13.3%
	TOPIX ▲28.1%	JPX400 ▲35.7%	最小分散 18.0%	日経225 ▲10.3%	TOPIX 0.6%	TOPIX 23.8%	最小分散 10.5%	TOPIX 30.7%	JPX400 ▲11.4%	最小分散 7.7%

出所：Bloomberg、ブラックロック。データは2016年12月末時点

* 上記は過去の実績であり将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

「MSCI 日本株最小分散指数」 連動指数の概要

■「MSCI 日本株最小分散指数」 指数の構築方法（イメージ）

MSCI 日本株指数

- 日本の主要企業をカバーする日本市場指数
320銘柄（2017年2月20日時点）で構成
- 時価総額でウェイト付け（大型株の価格変動の
影響を受けやすい）



MSCI 日本株最小分散指数

- 下記の各条件を満たし、価格変動リスク（分散）が
相対的に小さい銘柄を抽出
- 154銘柄（2017年2月20日時点）



銘柄の選定条件

▶ 銘柄

個別銘柄のウェイトが特定のものに偏らないように配慮

▶ 業種

特定の業種に偏らないように、各業種のウェイトに制限あり

▶ スタイル（ファクター） と呼ばれる銘柄の特性

例えば、企業の規模、割安度なども偏らないように配慮

▶ 売買回転率

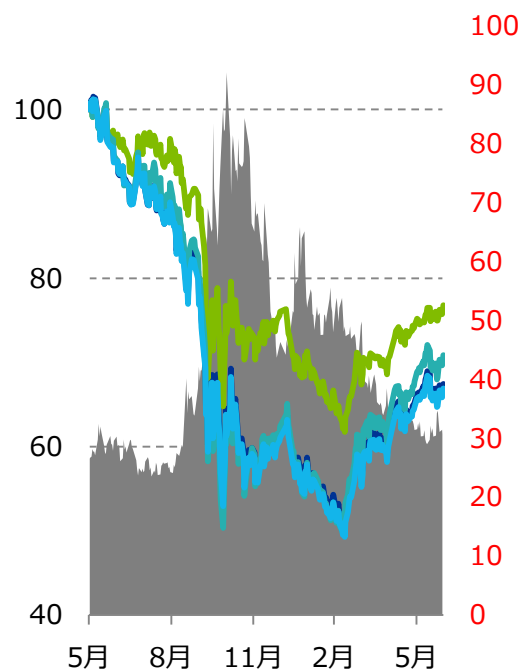
年間で20%以内

時価総額でウェイト付けされたTOPIXなどの指数と異なる、
特定の目的を持った銘柄選択方法を盛り込んでいることが、
「スマートベータ」と言われる所以

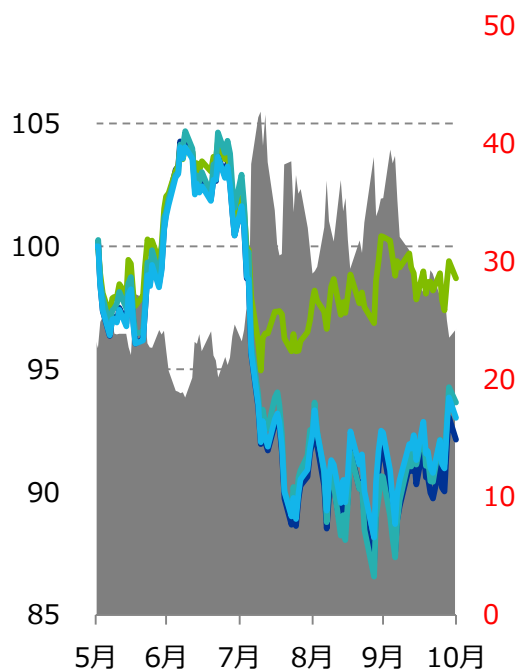
iシェアーズ MSCI 日本株最小分散 ETF

大きな市場の出来事が生じた過去の状況下でのパフォーマンス

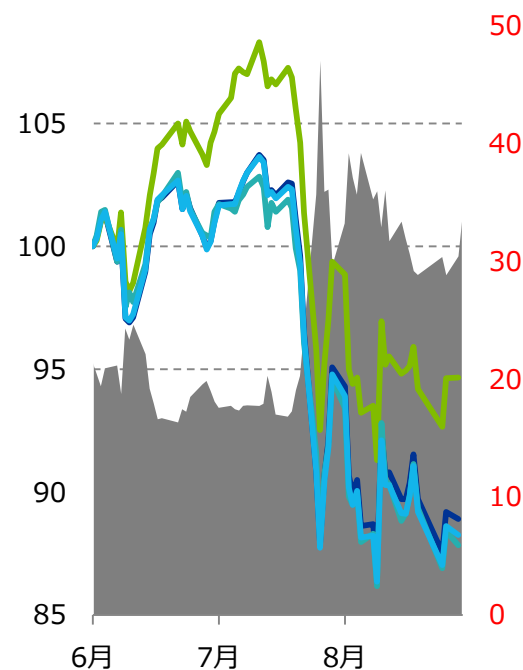
2008年～2009年 金融危機



2011年 米国債格下げ



2015年 中国市場混乱



■ 日経平均ボラティリティ・インデックス

(右軸)

— 最小分散

— TOPIX

— JPX400

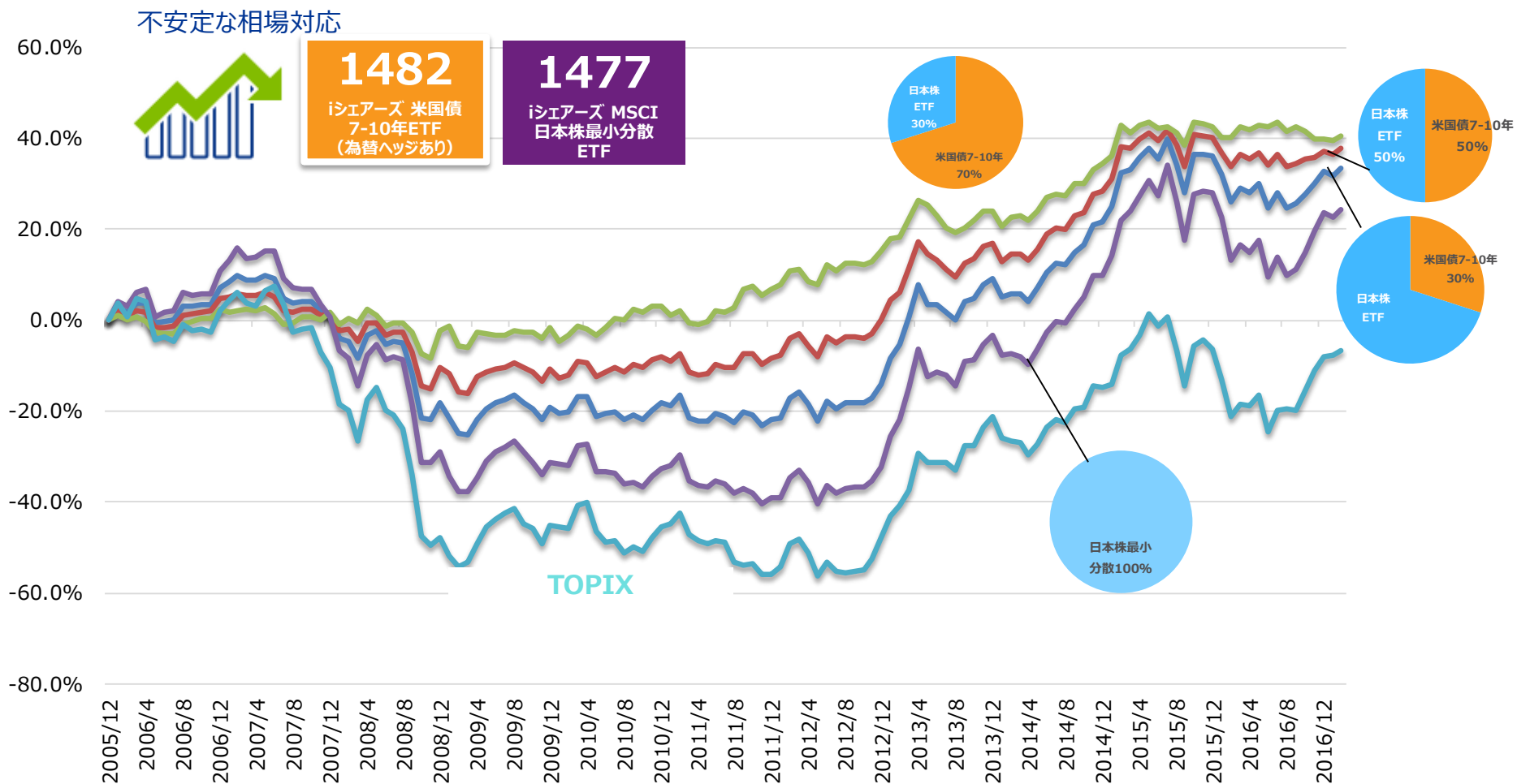
— 日経平均

注：上記は過去の事象を対象にしており、将来の発生を予測するものではありません。また、将来、同様のパフォーマンスが達成されることを保証するものではありません。

出所：Bloombergのデータをもとに、ブラックロック・ジャパンが作成

長期投資を継続する上で重要な一要素-価格変動を小さくする複数のETF活用例

債券ETF + 最小分散ETFで、価格変動を抑制することを目的としたシンプルな分散投資を始める



注：2005年12月を0とした場合の月次リターンを累積パフォーマンスを示しています。各組み合わせのリターンは、各ETFが連動する指数による月次リターンをウェイト加重しており、月次リバランスを行ったと想定しています。上記は、組み合わせの効果を示す例を説明することを目的として作成しており、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

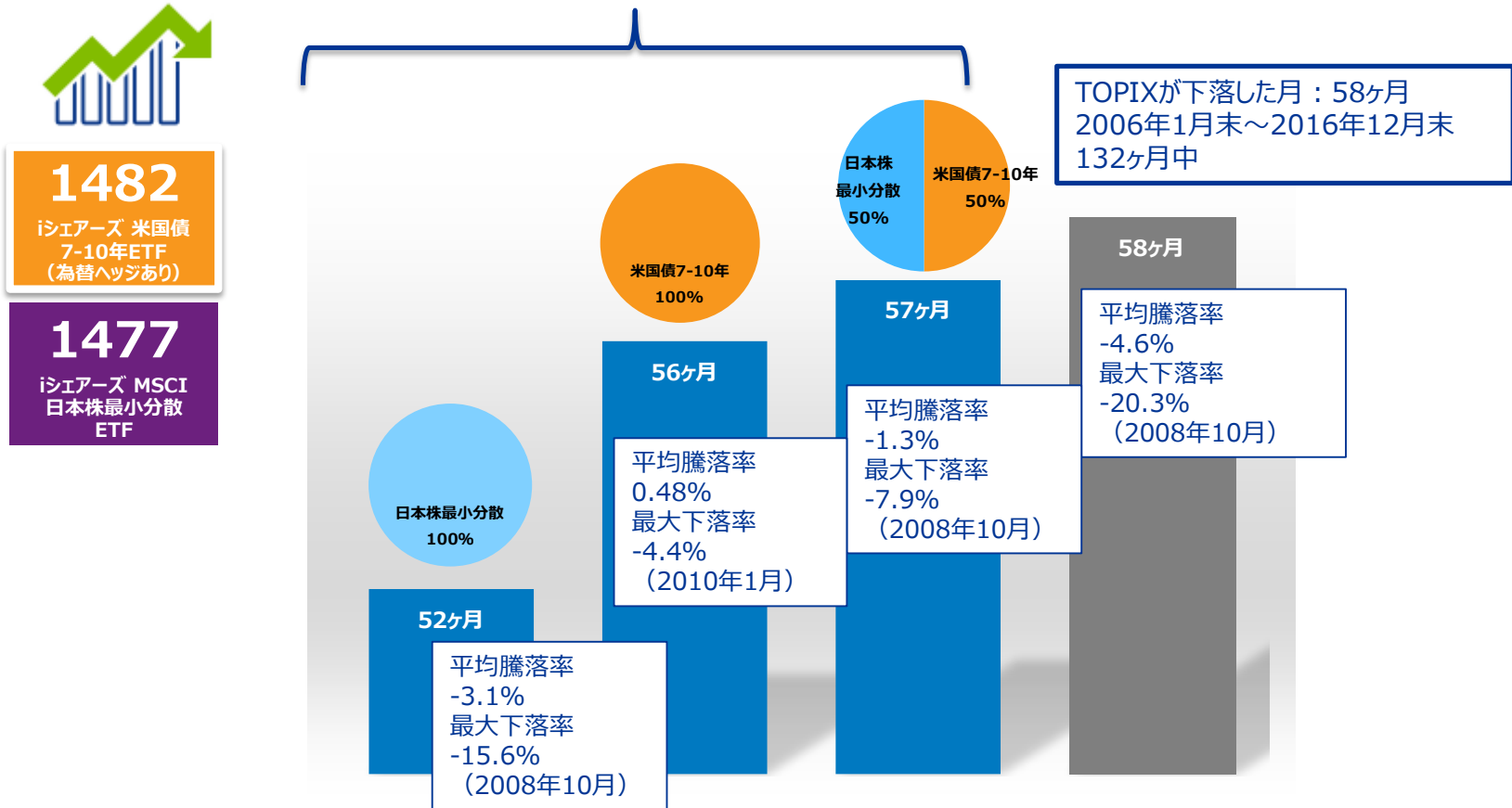
出所：ブラックロック

長期投資を継続する上で重要な一要素-価格変動を小さくする複数のETF活用例

単一の株式市場のみに投資する場合と比べて債券ETFと最小分散ETFの組み合わせにより下落幅を小さくすることが期待できる

不安定な相場対応

2006年1月末～2017年1月末までの期間においてTOPIXが下落した58ヶ月、
TOPIXと比べて下落が抑えられた月数



注:2006年1月末から2016年12月末までの期間で、TOPIXが下落した月58ヶ月を対象に、米国債7-10年（為替ヘッジなし）指数と日本株最小分散指数及び各指数を50%組み合わせた場合のリターンを基に、TOPIXを上回った月数を示しています。上記の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

出所：ブラックロック

まとめ

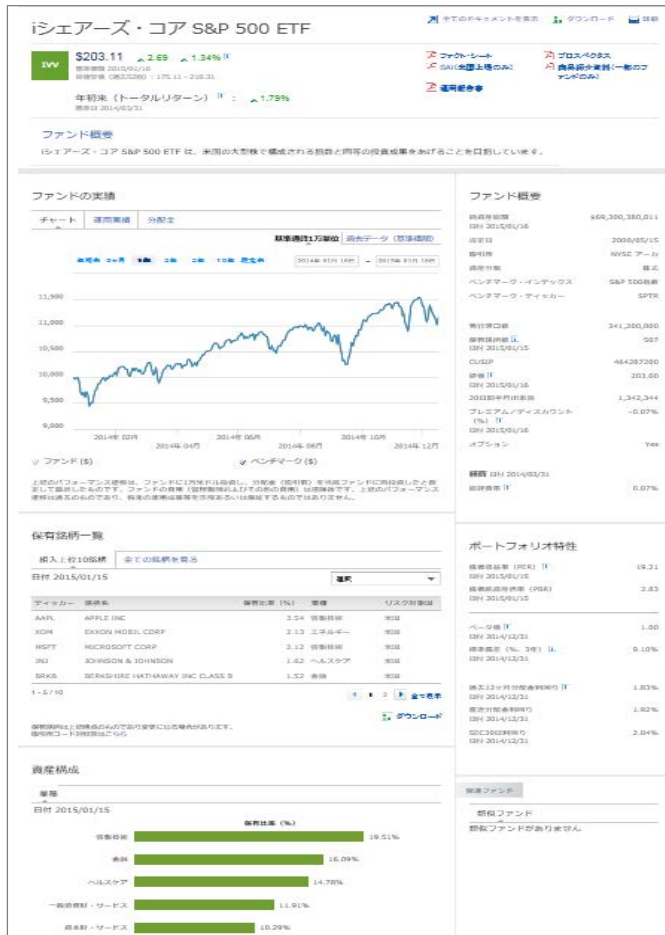
- ✓ ETFの利便性、債券ETF、「スマートベータ」型ETFといった商品の多様化、ETFポートフォリオによる分散投資の浸透は今後もETF市場の拡大をリードすることが期待される
- ✓ 今後の資産形成には多資産の組み合わせ、分散投資はますます重要になる
- ✓ ETFの組み合わせ、ETFポートフォリオによる投資は、個人投資家にも活用可能
身近なところから、シンプルな分散投資を開始しよう
- ✓ 長期投資を継続するコツの一つは大きな価格変動の抑制にある

ご参考: iシェアーズのディスクロージャーの充実

✓ iシェアーズは価格、全ての保有銘柄、トラッキングエラーなど数多くの情報を日次で開示

iシェアーズ Website (<https://www.blackrock.com/jp/ishares>)

ファンド概要ページ



ウェブサイトの便利な機能の一例

概要	価格データ等投資に必要な基本情報をまとめて掲載
実績	ファンドの運用成績を設定来から掲載
保有銘柄一覧	保有銘柄一覧を日次と月次で開示、エクセルのダウンロードも可
分配金	分配履歴の詳細を掲載
ドキュメント	各種資料をまとめて掲載
ツール&チャート	各ファンドのトラッキング・エラーの推移をチャートで閲覧可

閲覧可能な資料、データのサンプル

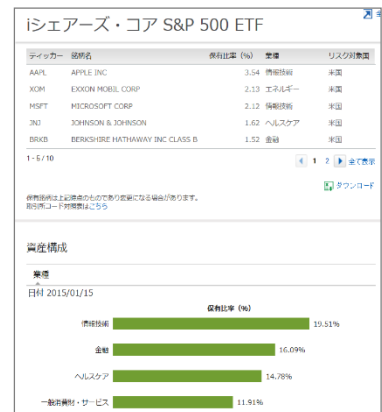
<ファンドファクトシート>



<運用報告書>



<保有銘柄一覧>



iShares®

by BLACKROCK®

留意事項

重要事項

本資料は、日本国内居住者である投資家を対象に、ブラックロック・インクを含むそのグループ会社（以下、「ブラックロック」という。）が運用を行うiシェアーズETFに係る基本的な特徴やリスク等の概要説明のために、ブラックロック・ジャパン株式会社（以下「弊社」という）が作成したものです。iシェアーズETFへの投資による損益はすべて投資家の皆様に帰属します。投資をご検討される際は、取扱い金融商品取引業者にて交付される契約締結前書面等を十分にご確認の上、ご自身でご判断下さい。弊社はiシェアーズETFに関する情報の提供は行っておりますが、その売買等に係る契約の締結を行っておりません。本資料は信頼できると判断した資料・データ等に基づき作成していますが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、将来の投資成果を保証・約束するものではなく、その内容は将来予告なく変更されることがあります。

リスクについて

iシェアーズETFは、投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。iシェアーズETFの価格は、連動を目標とする指数、組入有価証券の価格変動、金利および為替の変動等ならびにiシェアーズETFの発行者及び組入有価証券の発行者の経営・財務状況の変化ならびにそれらに関する外部評価の変化等により変動し、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。海外投資は、不利な為替変動、一般に認められた会計原則の相違、他国における経済または政治的不安定により、損失を被り投資元本を割り込むおそれがあります。また、エマージング市場及びフロンティア市場は、変動が大きく、取引高が比較的小さいことに加え、同様の要因に関連したリスクも高くなります。また、中小企業への投資や、特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（「REIT」）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。iシェアーズETF東証上場シリーズは円建ての金融商品であり、海外投資を行う場合は円と投資対象通貨との間の為替変動が運用成果に影響を与えます。また、日本預託証券（JDR）形式で発行・上場されている場合でも、受託有価証券とする外国ETF等を直接取得した場合と同様に前述のリスクを伴うものであり、JDRの発行・有価証券の受託により何らリスクが軽減されるものではありません。信用取引等のお取引をされる場合は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える大きな損失を被ることがあります。

手数料、費用等について

<東証上場iシェアーズETFについて>

東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFを売買する際の手数料は取扱いの金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは証券会社までお問い合わせください。ETFを保有する期間は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。

<海外上場iシェアーズETFについて>

海外の証券取引所に上場しているiシェアーズETFの売買の際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）によって定められます。売買にあたっては、前述の手数料の他に、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生することがあります。（現地法制度等により定められるため記載できません。）売買にあたり、円貨と外貨、または異なる外貨間での交換をする際には、それぞれの証券会社で別途定められた手数料が課せられることがあります。ETFを保有する期間は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。

保有時の費用の率は個別のiシェアーズETFによって異なります。また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。個別のiシェアーズETFに関する情報、運用報酬・管理報酬等については、取扱い金融商品取引業者（証券会社）、又はiシェアーズETFに関するウェブサイト（www.blackrock.com/jp/ishares/）にてご確認ください。

留意事項

著作権について

本資料の著作権は、ブラックロック・ジャパン株式会社に帰属し、全部又は一部分であってもこれを複製・転用することは社内用、社外用を問わず許諾されていません。

©2017 BlackRock Japan Co., Ltd. All rights reserved. iShares® (iシェアーズ®)およびBlackRock® (ブラックロック®))はブラックロック・インクおよび米国その他の地域におけるその子会社の登録商標です。他のすべての商標、サービスマーク、または登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。

※「MSCI」および「MSCI Index」はMSCI Inc.のサービスマークであり、ブラックロックはその使用許諾を得ています。iシェアーズETFは、MSCI Inc.が出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではありません。また、同社は、iシェアーズETFに投資することへの妥当性に関していかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

※「Morningstar®」はモーニングスター・インクのサービスマークであり、ブラックロックはその使用許諾を得ています。iシェアーズ・ファンドはモーニングスター・インクが出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではありません。また、同社は、iシェアーズ・ファンドへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

※「S&P®」はスタンダード・アンド・プアーズ・フィナンシャル・サービスLLC(「S&P」)の登録商標であり、「Dow Jones®」は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLC(「ダウ・ジョーンズ」)の登録商標で、S&P ダウ・ジョーンズ・インダイシズLLCおよびその関係会社はその使用ライセンスを供与されています。また、ブラックロックは一定の目的での使用についてこれらの登録商標のサブライセンスを供与されています。S&P ダウ・ジョーンズ・インダイシズLLCは、iシェアーズETFのいずれに関しても出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではなく、またiシェアーズ・ファンドへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

※iシェアーズETFは、マークイット・インダイシズ・リミテッドが出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではありません。また、同社は、iシェアーズETFへの投資の妥当性に関していかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

※iシェアーズETFは、バークレイズ・キャピタル・インクが出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではありません。また、同社は、iシェアーズ・ファンドへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

留意事項

ブラックロックについて：

ブラックロックは、グローバルに資産運用、リスク・マネジメント、アドバイザリー・サービスを提供している世界有数の資産運用会社です。2016年12月31日現在、運用資産残高はグループ全体で総額5.15兆米ドル（約600兆円）にのぼります。ブラックロックでは、お客様のニーズに応じて、アクティブ、エンハンスド、インデックス等の戦略を駆使して市場や資産クラスを跨いだ様々な運用サービス及び商品をご提供しています。そうした運用サービスや商品は、投資一任口座、ミューチュアル・ファンド、iShares®ETF（上場投資信託）等、多様なスキームで運営されます。また、ブラックロックは、ブラックロック・ソリューションズ®を通じて、リスク・マネジメント、アドバイザリー・サービス、全社的資産運用プラットフォーム提供サービスを機関投資家にご提供しています。ブラックロックは、ニューヨークを本拠として北米、南米、欧州、アジア、オーストラリア、中東、アフリカ等、世界30カ国以上の拠点と従業員約12,400名超で事業を展開しています。詳細は、ブラックロックのグローバルウェブサイトをご覧ください。www.blackrock.com

iシェアーズについて：

「iシェアーズ」はブラックロック・グループが設定・運用するETF（上場投資信託）のトップ・ブランドです。株式、債券、コモディティにわたって、全世界でおよそ800本（2016年12月末時点）のファンドが20の証券取引所で取引されています。iシェアーズのETF（以下、「iシェアーズETF」）は、普通株式のように証券取引所で売買されます。比較的低額の手数料、日中に時価で売買するなど柔軟性のある取引が行えるなどの利点を有しており、多くの個人投資家、機関投資家、ならびに販売会社となる金融機関の間でご好評をいただいております。iシェアーズETFは、株式の取引が可能な証券口座を有する証券会社等を通じて売買が可能です。iシェアーズETFは、年金や資産運用会社などの機関投資家、フィナンシャル・アドバイザーや富裕層の個人投資家などを中心にご利用いただいております。 www.blackrock.com/jp/ishares/

ブラックロック・ジャパン株式会社

iシェアーズ事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） www.blackrock.com/jp/ishares/

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ウェブサイト www.blackrock.com/jp/

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館